



未成熟ソラマメ、サヤインゲンの病害虫防除

未成熟ソラマメ栽培では、冬季の寒さや強風などで茎葉の一部に傷みをうけていますが、これから生育が回復すると各種病害虫の発生にも注意が必要です。また、サヤインゲンの栽培でも、これから茎葉の生育、伸長と共に病害虫が発生してきます。このため、これら作物の生育および病害虫の発生状況を確認しながら、必要に応じた防除対策が必要となります。

1 未成熟ソラマメでは、えそモザイク病、モザイク病、赤色斑点病、褐斑病、輪紋病、さび病、立枯病、茎腐病、菌核病、アブラムシ類などが発生します。えそモザイク病は土壌伝染し、ウイルス病で最も被害が大きく、進展すると萎縮、枯死します。モザイク病は主にアブラムシ類が媒介しますので、媒介虫の防除が必要です。立枯れ病害には、立枯病（フザリウム菌）、茎腐病（リゾクトニア菌）、菌核病などがあります。また、茎葉に病斑を生じる病害には、赤色斑点病、褐斑病、輪紋病などがあり病徴が類似しています。これらは進展すると莢にも発病して、品質低下や減収を招きます。

アブラムシ類の主なものはマメアブラムシで、開花・結実の時期となる4月頃から急速に増加してきます。吸汁加害により株や莢の生育不良を招くほか、モザイク病のウイルスを媒介するので早期な防除が必要になります。

表1 未成熟ソラマメ 赤色斑点病、輪紋病、さび病、灰色かび病、菌核病の主な防除薬剤（令和5年3月6日現在）

薬剤名	赤色斑点病	輪紋病	さび病	灰色かび病	菌核病	希釈倍数	使用時期 / 使用回数	分類
ファンタジスタ顆粒水和剤	○		○	○	○	2,000倍	収穫前日まで / 3回以内	11
ロブラール水和剤	○					1,000倍	収穫前日まで / 3回以内	2
ジマンダイセン水和剤		○	○			400~600倍	収穫30日前まで / 3回以内	M3
カナメフロアブル			○	○	○	4,000倍	収穫前日まで / 4回以内	7
セイビアーフロアブル20				○		1,000倍	収穫前日まで / 3回以内	12
Zボルドー	○					500倍	- / -	M1

表2 未成熟ソラマメ アブラムシ類、ハモグリバエ類、ハダニ類の主な防除薬剤（令和5年3月6日現在）

薬剤名	アブラムシ類	ハモグリバエ類	ハダニ類	希釈倍数	使用時期 / 使用回数	分類
スタークル顆粒水溶剤	○	○		2,000倍	収穫7日前まで / 2回以内	4A
スミチオン乳剤	○			1,000~2,000倍	収穫3日前まで / 3回以内	1B
アディオオン乳剤	○	○		3,000倍	収穫7日前まで / 3回以内	3A
ディアナSC		○		2,500~5,000倍	収穫前日まで / 2回以内	5
コロマイト乳剤			○	1,500倍	収穫前日まで / 2回以内	6

注）表1の分類欄にはFRAC、表2にはIRACコードを記載しました。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください。

2 サヤインゲンでは、モザイク病、角斑病、炭疽病、さび病、灰色かび病、菌核病、根腐病、アブラムシ類、ハモグリバエ類、アズキノメイガ、ハダニ類などが発生します。モザイク病は主にアブラムシ類が媒介しますので、アブラムシ類の防除が必要です。立枯れ病害には、根腐病（フザリウム菌）、白絹病などがあります。茎葉や莢に病斑を生じる病害には、角斑病、炭疽病、さび病、灰色かび病、菌核病などがあり、いずれも長雨や多湿条件が続くと多発生します。角斑病や炭疽病には登録農薬が少なく、雨除け栽培などによる耕種的な防除が必要です。

アブラムシ類は、4~5月頃から発生します。ハモグリバエ類は、幼虫が葉肉内を食入して白い線状の被害となります。アズキノメイガは、多発生すると茎の食入部より折れて大きな被害となります。

表3 サヤインゲン 灰色かび病、さび病、炭疽病、菌核病の主な防除薬剤（令和5年3月6日現在）

薬剤名	灰色かび病	さび病	炭疽病	菌核病	希釈倍数	使用時期 / 使用回数	分類
ファンタジスタ顆粒水和剤	○		○	○	2,000倍	収穫前日まで / 3回以内	11
アフェットフロアブル	○	○		○	2,000倍	収穫前日まで / 3回以内	7
セイビアーフロアブル20	○			○	1,000~1,500倍	収穫前日まで / 3回以内	12

表4 サヤインゲン アブラムシ類、ハモグリバエ類、アズキノメイガ、ハダニ類の主な防除薬剤（令和5年3月6日現在）

薬剤名	アブラムシ類	ハモグリバエ類	アズキノメイガ	ハダニ類	希釈倍数	使用時期 / 使用回数	分類
スタークル顆粒水溶剤	○	○			2,000倍	収穫前日まで / 2回以内	4A
ウララDF	○				2,000~4,000倍	収穫前日まで / 2回以内	29
ディアナSC		○	○		2,500~5,000倍	収穫前日まで / 2回以内	5
アフーム乳剤		○			2,000倍	収穫前日まで / 2回以内	6
コテツフロアブル			○	○	2,000倍	収穫前日まで / 2回以内	13
ダニトロンフロアブル				○	1,000~2,000倍	収穫前日まで / 1回	21A

注）表3の分類欄にはFRAC、表4にはIRACコードを記載しました。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農NEWSはJA全農いばらきホームページでもご覧になれます。